

打拉日山塊東面の  
初めての写真



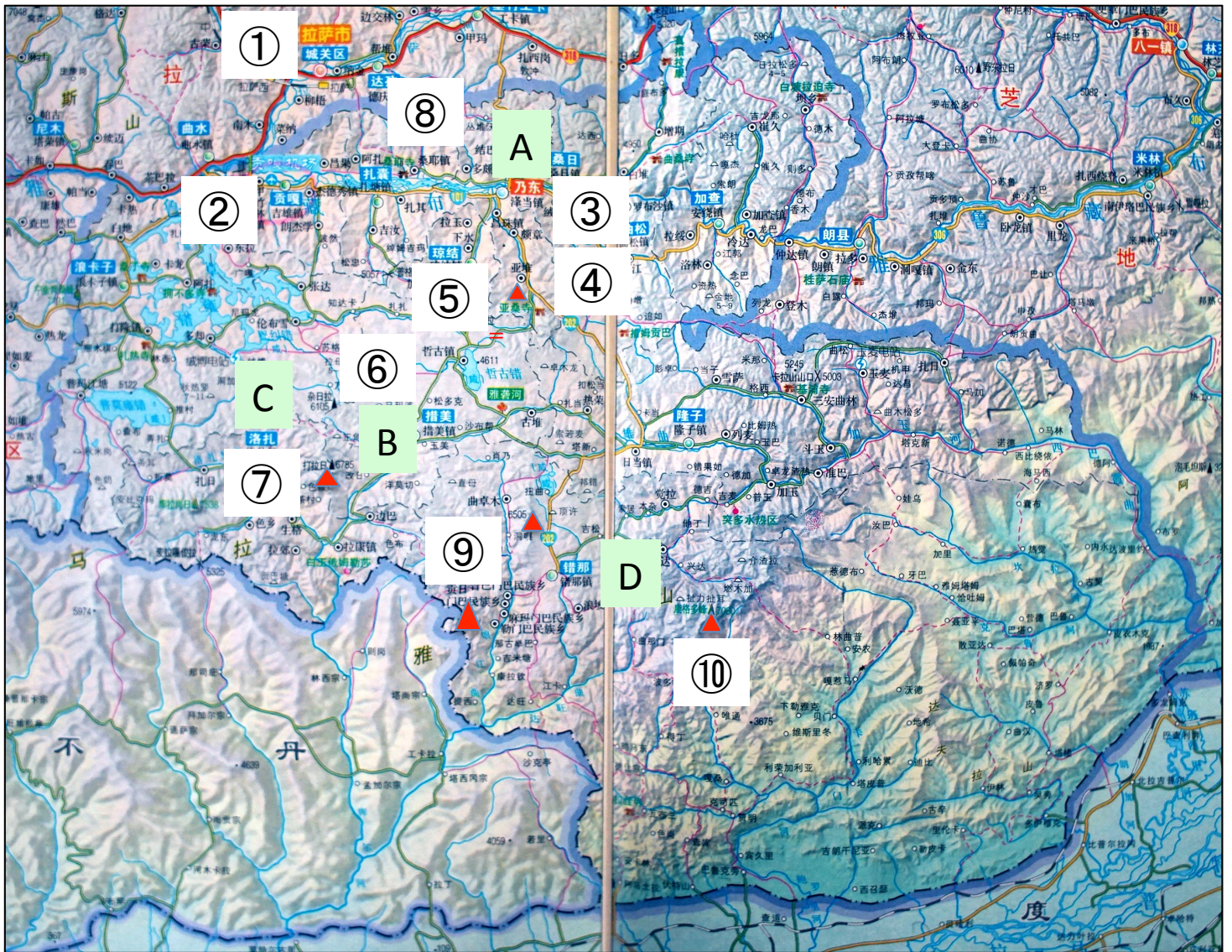
## 1. 山南地区俯瞰

ラサ市の南、ヤルン・ツァンポ南岸からブータン、インド国境まで広がる地域は山南地区と呼ばれる（次ページ地図の青線内）。面積は日本のほぼ2倍の80万平方KM、人口は32万人。地元では伝統的にロカ（南の方と）と呼ばれてきた。12県に分かれており、乃東県の県府・澤当が山南地区の首府でもある。

この地区の北西端にラサ空港があり、比較的足を踏み入れ易く、チベット初の修行のための僧院・桑耶寺に代表される多くの古刹とともにヤムドク湖、プーマユム湖などの高原湖もあり、チベット屈指の観光地となっている。

2013年秋中村保氏はこの地のブータン・インド国境周辺の踏査を目指した。しかし、辺境地区への入域規制の強化、そして思いがけない重度の高山病と言う困難が待ち受けていた。

針葉樹会2014年 新年会の折の同氏の講演資料を元に、現地地図（西藏自治区地図冊参照）を参照しながら氏の足跡を辿ってみた。



中村氏は2013年10月26日より31日までチベットに滞在した。その間の主な訪問地点と観察対象、そして踏査予定の場所を地図上に①から⑩の数字で示した。また、関連する県名をAからDで、踏査ルートは赤の破線で示した。

A：乃東・ネドン県      B：措美・ツォメ県  
 C：洛扎・ロダク県      D：錯那・ツォナ県

- ①：拉萨・ラサ市・Lhasa
- ②：拉萨空港
- ③：澤当・ツェタン・Zetang(3650m)
- ④：雅拉香布・ヤラシャンボ・Yaraxanbo(6635 m)
- ⑤：吉尔拉 (5130m)から南西へ下った4800mの撮影地点
- ⑥：哲古錯・ディグツォ (4600m)
- ⑦：打拉日・ターラリ・Tarlha Ri (6777m)
- ⑧：桑耶寺・サムイエゴンパ (3500m)
- ⑨：6505m峰／6441m峰
- ⑩：推崗日・ツイカンリ・Tui Kangri(6990m)  
 康格多峰・カント峰・Kangardo Rize(7060m)





10月26日：ヤルン・ツァンポ沿いの道を東へ80km、③澤当へと向う。

10月27日：③澤当より南下、50kmほどで左手に④雅拉香布・ヤラシャンポ Yaraxanbo(6635 m)の見事な西面が現れる。



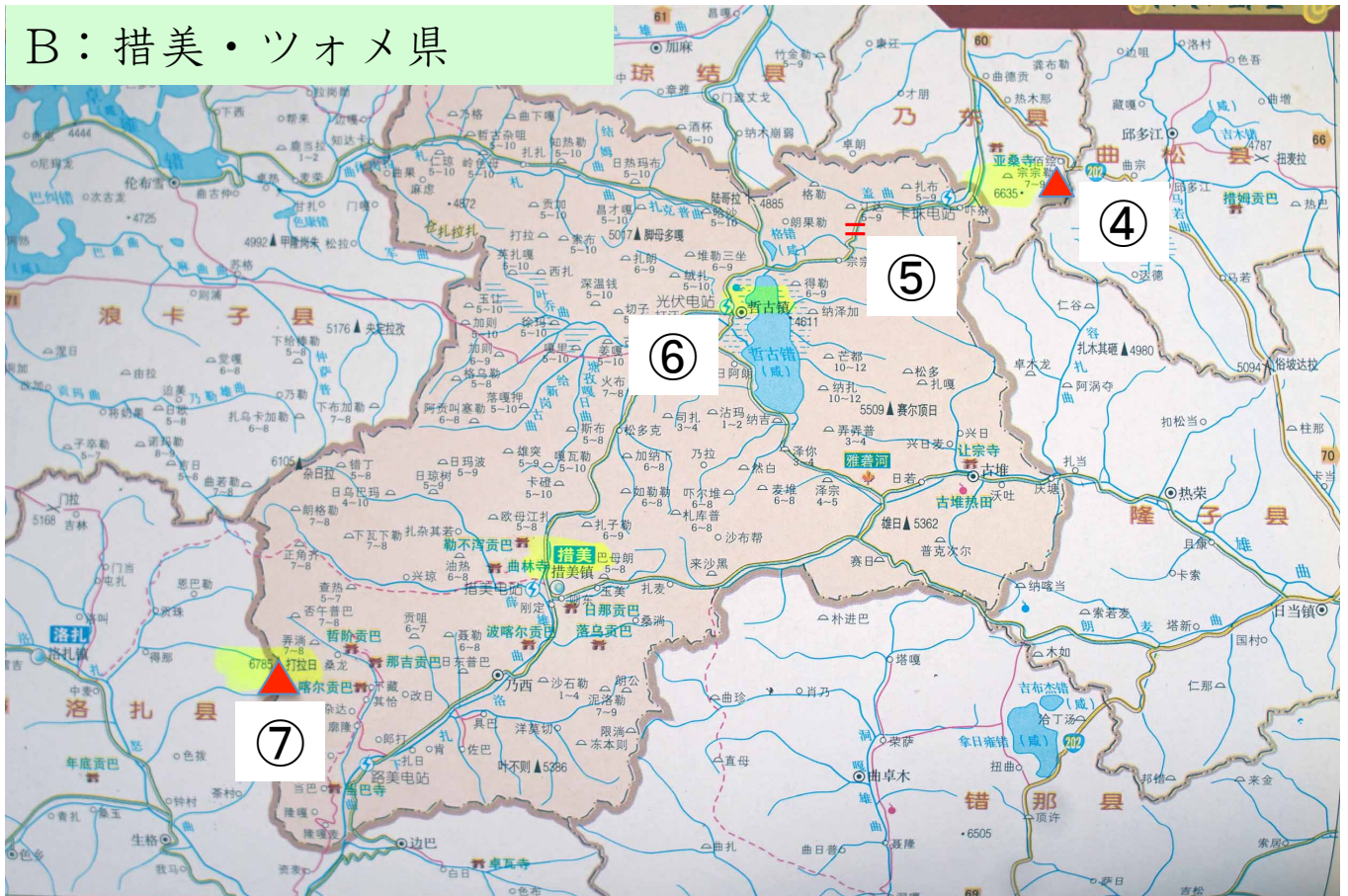
Yalaxianbo 6635m W face 南チベットの名峰・雅拉香布6635m西面

雅拉香布の南面には広大な高原が広がっている。

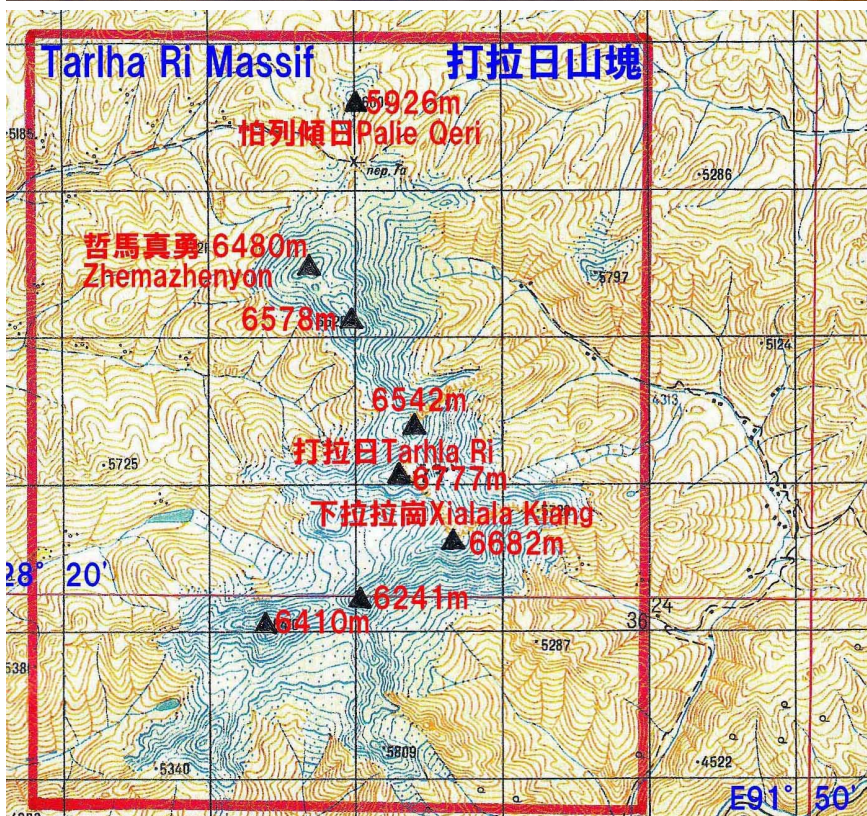


Yalaxianbo 6635m S face South Tibet 雅拉香布南面 西南 (Kenzo Okawa)

## B: 措美・ツォメ県



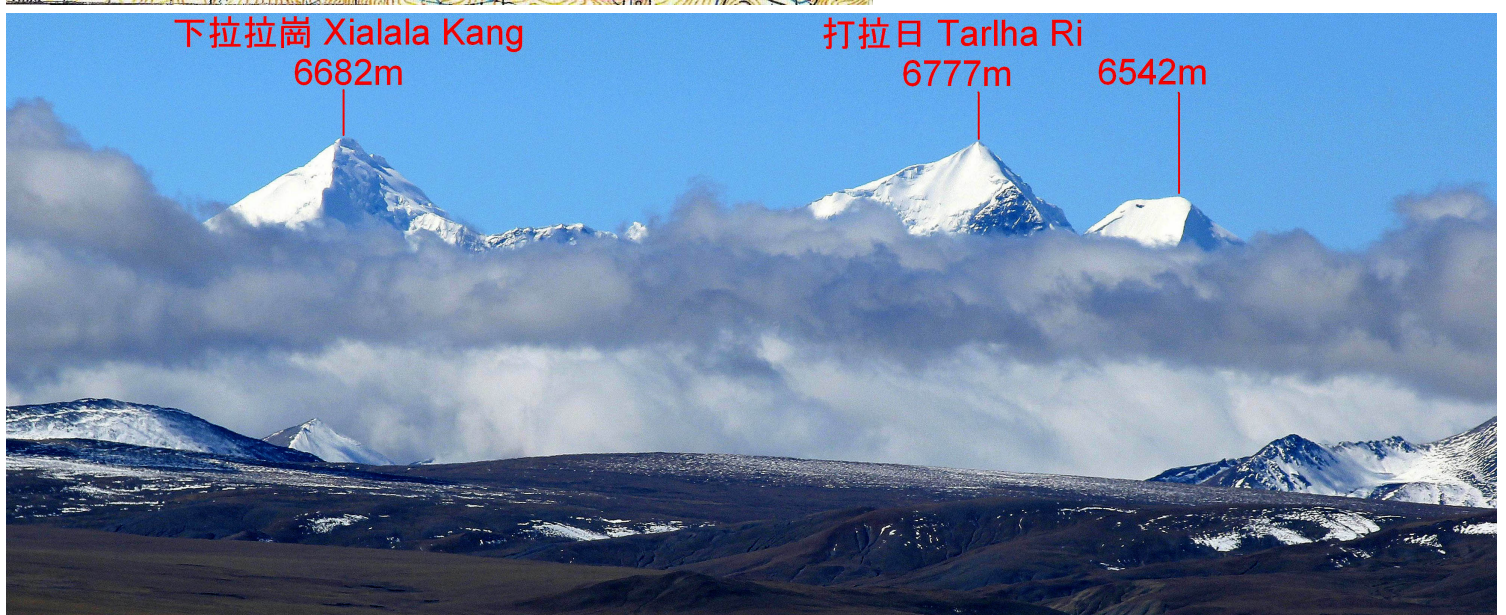
⑤の吉尔拉 (5130m) 峠の南西4800m地点から⑥の哲古錯・デイグツォ (4600m)、さらにはその向う18km南西に位置する5630m峰を望む。



中村氏が体調不良となる直前に吉尔拉（峠）南西4800m地点から撮影された打拉日山塊。当山塊の東面の写真は初めてで現在山座同定が行われている。

山塊北方の恰列傾日・Palie Qe Ri(5926m)の右側には西方60kmにある、倉拉崗日・Gukha Kangri・クーラカンリ(7538m)の姿も捕えられている。

晴れ男は難局にあっても手ぶらで帰ることは無い。この旅をOnly one day “blue sky” Expeditionと中村氏自ら形容した所以である。



### 3. 踏査断念



Sanna Monastery, Zetang 桑那寺(名刹)、澤当

10月27日：打拉日を望む⑤吉尔拉 (5130m)峠を越えて体調を崩した中村氏は澤当に戻ることになった。

10月28日：休養を兼ねて名刹⑧桑耶寺・サムイエゴンパ (3500m)を訪問した。

この寺は8世紀に仏教を国教と定めたチベット国王が創建したチベット最初の僧侶の修行を目的とした僧院（ゴンパ）である（寺院・ラカンではない）。779年に大本殿が完成、チベット初の7人の出家僧が誕生した。以来、インドの教典がここで続々とチベット語に翻訳されていった。

建物の配置は宇宙の構造を模した曼荼羅に則っており、東にある丘の上からその全貌が見渡せると言う（「全チベット文化圏完全ガイド」参照）。

10月29日：中村氏は休養にも関わらず体調は回復せず、澤当の診療所で診察を受け、ラサでの精密検査を勧められただけにラサへ戻った。結果、このまま旅を続けるのは止めた方がよいとの医師のアドバイスを受け、踏査行はここで断念することになった。



Potala Palace, Lhasa  
ポタラ宮、ラサ

10月30日：中村氏にとって2年ぶりのラサの町は一段と整備され都会的になっていた。ポタラ宮の前を西洋の女性のモデルを起用した巨大な家具のポスターを掲げた宣伝カーが走り、ジョカン寺では五体投地の最中お祈りそっちのけでスマホを見ている巡礼者がいた。

10月31日：ラサでの一日の休養の上成都へ戻り、今回の踏査は終わった。



携帯

Lhasa 大昭寺

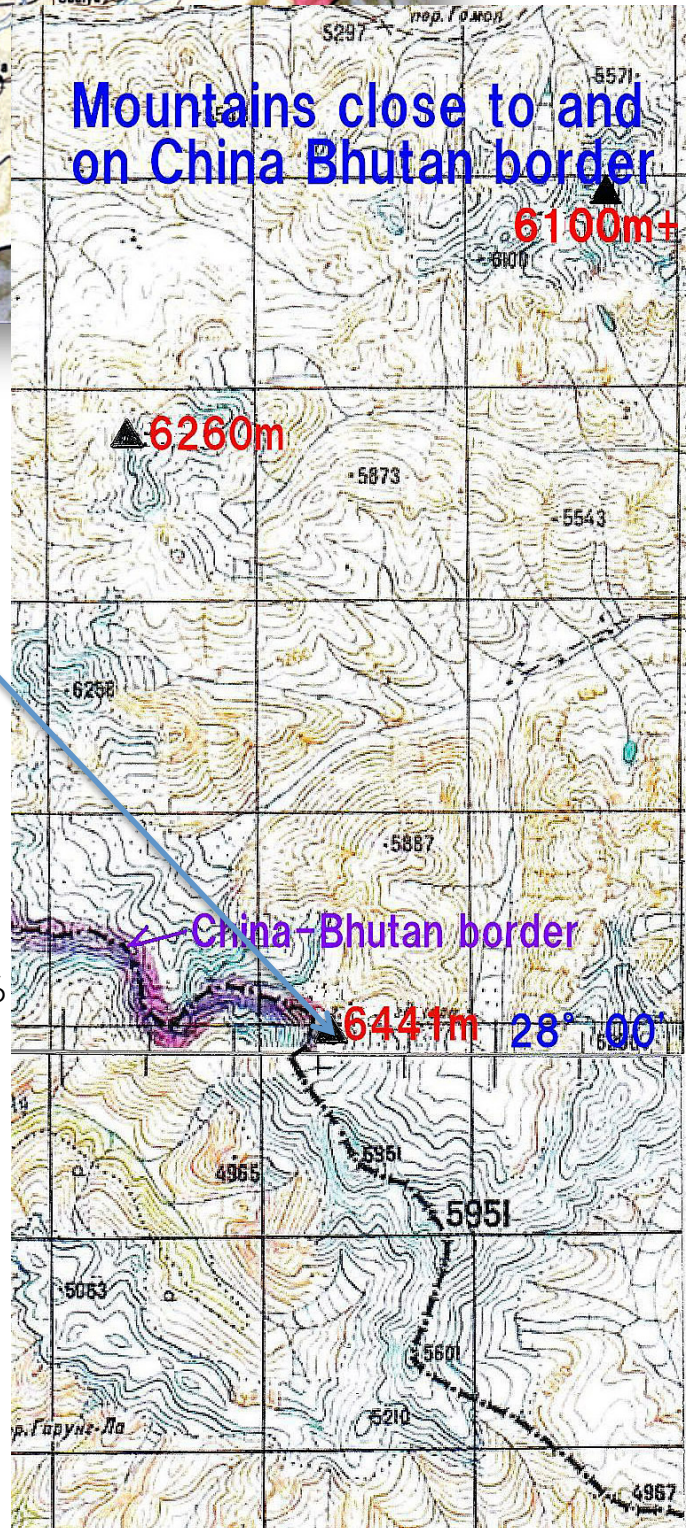
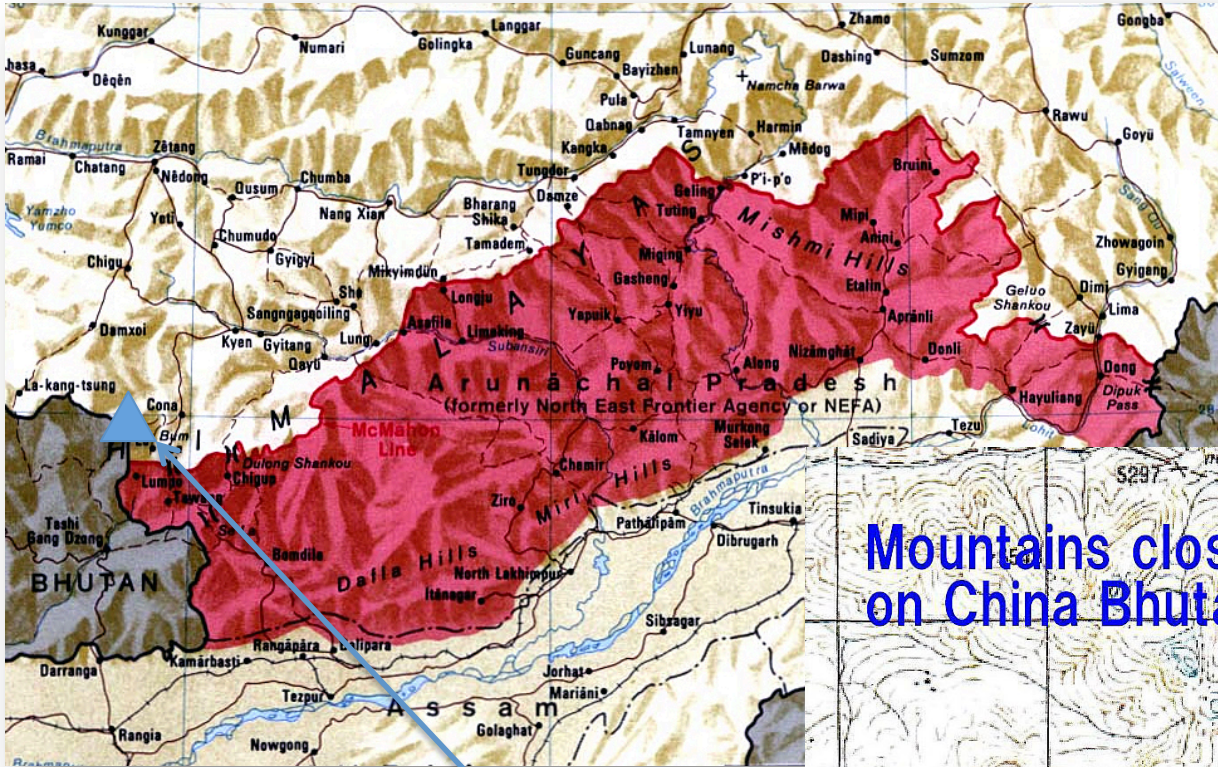
#### 4. 山南の南・ブータン／インド国境地域



今回は残念ながら踏査できなかったが、中村氏は山南の南にあるマクマホンライン沿いでさらに次の2地域への入域を計画していた。

- ⑨：6505m峰/6441m峰（チベット・ブータン国境上の山）
- ⑩：推崗日・ツイカンリ・Tui Kangri(6990m)  
康格多峰・カント峰・Kangto (7060m)

この一帯で登られているのは同志社大が1988年に初登頂したカント峰だけ。その北東30kmに位置するツイカンリは、インド隊が挑戦、手前のピークを頂上と間違えて物議をかました曰く付きの山であり、今でも未踏だ。



Mountains close to and on China Bhutan border

6100m+

6260m

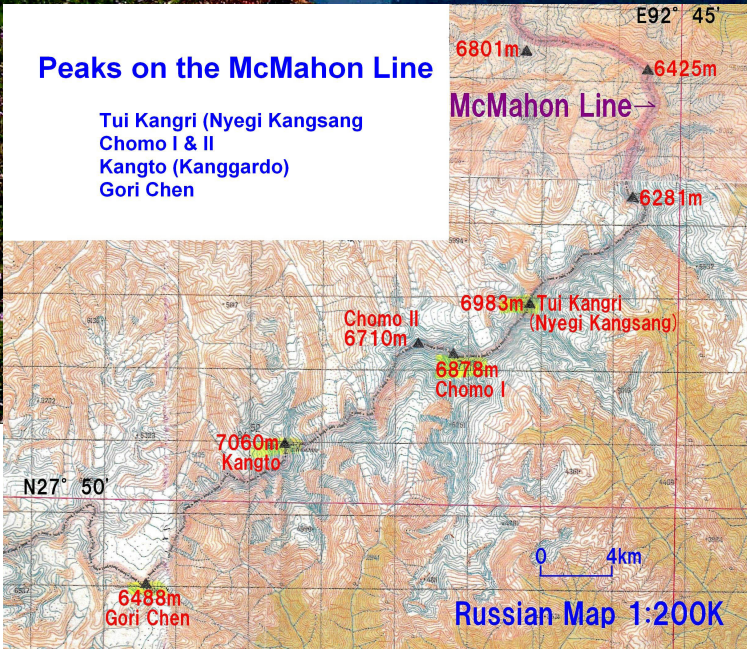
6441m 28° 00'

辛亥革命により清朝政府が倒れたあと、1914年、当時のチベットとイギリス領インドとの間で広大な幅を擁した国境線がひかれ、マクマホンラインと呼ばれた（地図上で赤くマスクされた部分）。

その後新中国が誕生し、このラインを否定したものの、未だに実質的な国境線となり、入域はきわめて困難である。

中村氏はこの境界上に連なる未踏の山々の調査を目指したが残念ながら今回は果たせなかった。

近い将来中村氏がふたたびこの地域に向かい、ライフワークの一層の拡充を図られることを強く期待したい。



この一帯の山で登頂されているのは  
1988年同志社大が初登頂した康格多  
峰・カント峰・Kangto (7060m)  
だけである。

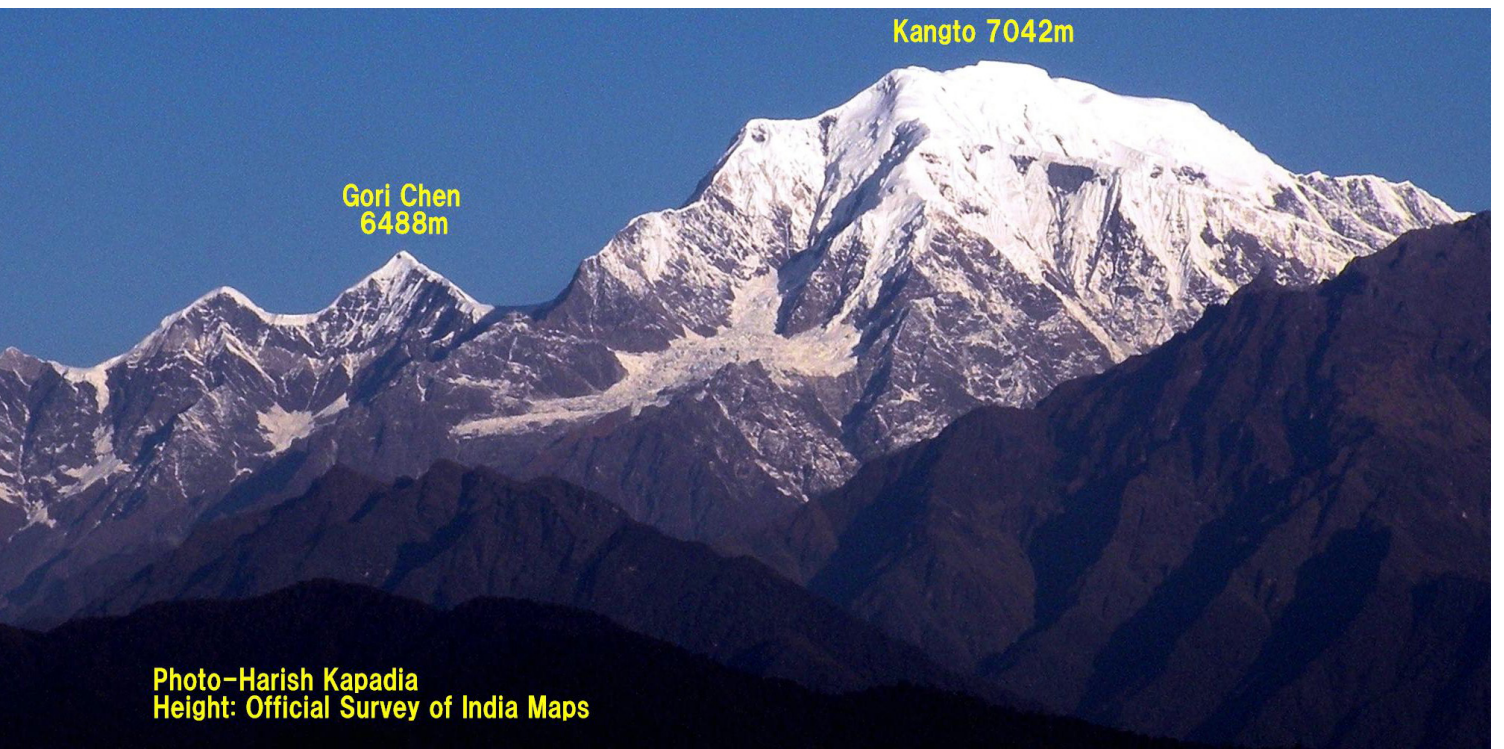


Photo-Harish Kapadia  
Height: Official Survey of India Maps

## 5. 参考

山南地区にはラサ空港から気軽に行ける見事な展望の地が豊富だ。編者が北京駐在時代（2006年）に訪れた2つの湖を紹介したい。プーマ・ユムツォはかつて天空の湖としてNHKで紹介されたことがある極地の湖だ。



プーマ・ユムツォ（5009m）とクーラカンリ（7554m）北峯



ヤムドク湖（4441m）とノジン・カンサン（7191m）（文責・金子晴彦）